



## 「あまおう」10月の管理

南筑後普及指導センター  
福岡大城農業協同組合

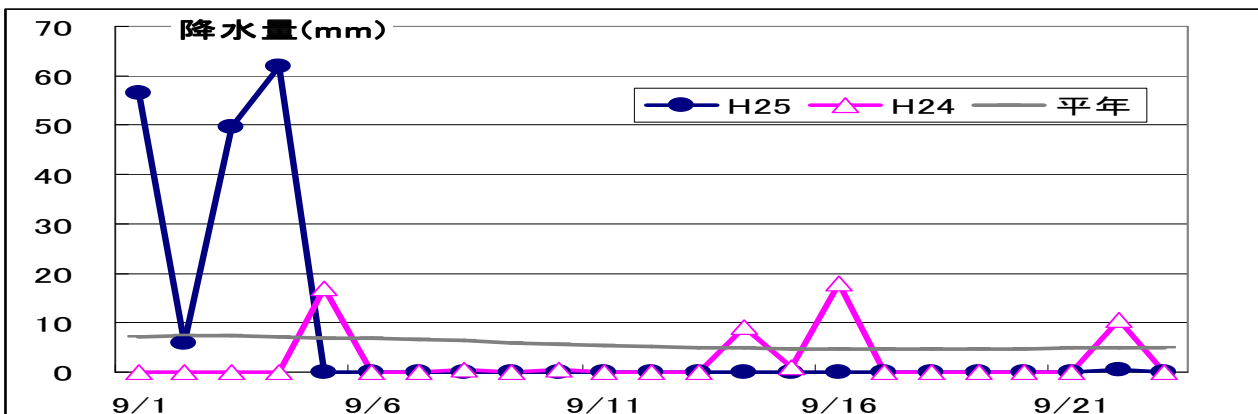
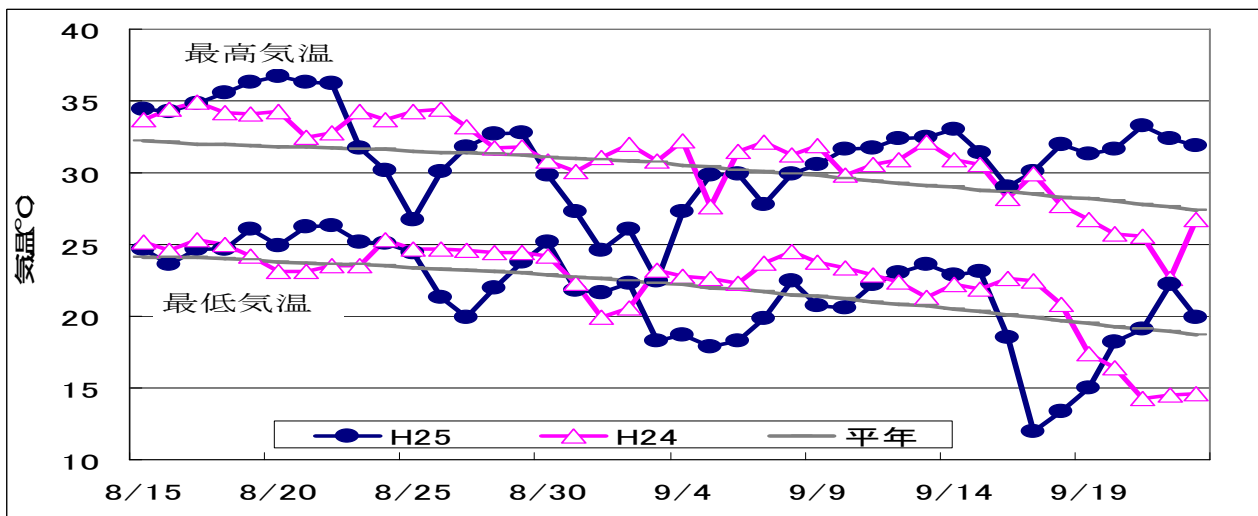
### 【花芽分化状況】

今年は、8月中旬すぎまで高温で推移し、花芽分化の遅れが懸念されましたが、早期作型については、特に3型までの苗で、やや遅れやバラつきが見られたものの、全体的には平年並で順調に花芽が分化しました。

また、9月に入って気温が急激に低下し、最低気温が20℃を下回る日が連続したことから、普通ポットの花芽の動きだしは非常に早く、9月中旬には「分化」以上の苗が多く確認されました。しかし、一部では「分化以上」と「未分化」が混在しており、普通ポットの花芽分化は、やや早いものの、バラつきが大きい状況となっています。

### 【定植後の状況】

9月中旬から好天に恵まれ、順調に定植作業は行われましたが、9/5以降ほとんど降雨が無いことから、活着後の生育は遅れ気味です。マルチ作業に向けて、かん水をやや控える時期になりますが、切り過ぎないように注意しましょう。

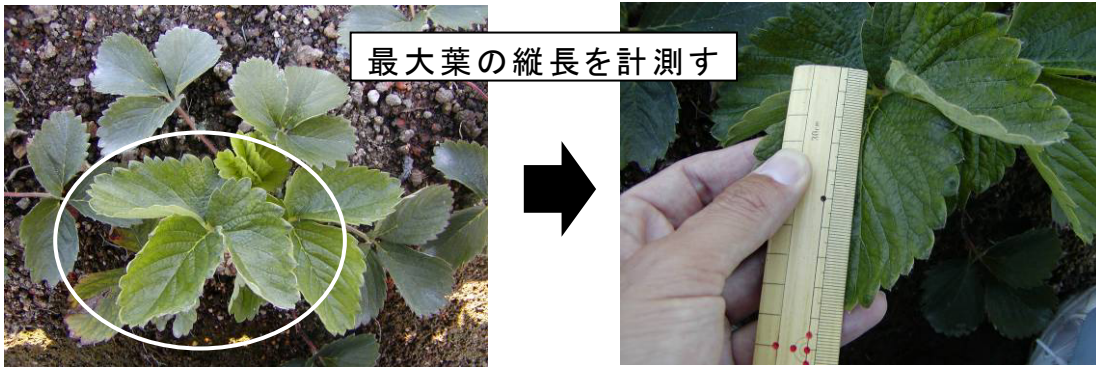


## 今後の管理

草勢が旺盛すぎる場合は、2番花房の分化が遅れやすくなりますので、寒冷紗被覆など2番花房の早期分化に向けた対策をしっかりと行いましょう。また、普通ポットにおいても、平年よりも定植が早くなったところが多く、草勢が旺盛になることが懸念されます。草勢に応じて、早期作型と同様に2番花房対策を行いましょう。

### 草勢の判断の目安（早期作型）

10月上旬の最大葉長（定植後出葉した中で最も大きい葉）を測定する。



#### ○草勢が旺盛な場合（最大葉長9cm以上）

2番花房の分化を促進させるため、草勢を抑える管理を行う。

- ・ 寒冷紗を被覆する。
- ・ マルチやビニル被覆を遅らせる。（マルチしている場合は、裾を畝の肩まで上げる）

#### ○草勢が抑制されている場合（最大葉長8cm以下）

2番花房は分化しやすいため、株の生育促進を図り、厳寒期に向けた株作りを図る。

- ・ マルチやビニル被覆を早め、やや高めの温度管理をする。

## かん水

- ・ 活着までは、畝の表面が乾燥しないように十分かん水する。活着後は、ハウス内で作業が行えるようにかん水量をやや控える。
- ・ 草勢が旺盛で葉色が濃い場合、かん水を控え目に行い（pF値の目安2.0）、肥効抑制を図る。
- ・ 生育が抑制されている場合、十分にかん水を行い、乾燥しすぎないように注意する。

## 寒冷紗被覆

- ・ 2番花房の分化促進のため、9月末頃から10月20日まで寒冷紗を被覆する。
- ・ 天候によっては軟弱徒長しやすいため、通気性を十分に確保する。
- ・ ほ場が乾きにくくなるため、かん水の回数や量を調整し適湿を保つ。
- ・ 軟弱な生育になるとうどんこ病の発生が多くなるため、予防防除を徹底する。
- ・ 寒冷紗被覆ハウスにミツバチを搬入する場合は、訪花を促すため巣箱をハウス内に入れておく。

寒冷紗の種類	遮光率
シルバー寒冷紗 109番	39%程度
黒寒冷紗 600番	51%程度
黒寒冷紗 610番	58%程度

（裏面につづく）

## 下葉除去・どろ芽除去

- ・ マルチ前に下葉・どろ芽を除去し、マルチ時の葉数が4～5枚になるようにする。
- ・ 摘葉直後は、必ず「炭そ病」と「ダニ」の防除を実施する。

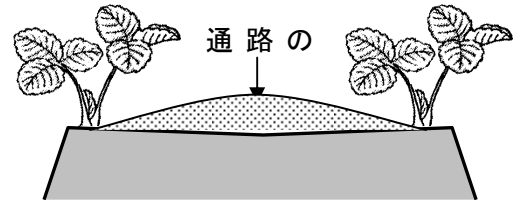
## 追肥・中耕・畝上げ

- ・ 生育が順調な場合、「マルチ前の追肥」までは窒素分の追肥や葉面散布は行わない。
- ・ 活着不良等で、生育が悪い場合は、液肥や葉面散布で生育促進を図る。

### 【追肥量の目安】

肥料名	成分率(%)	投入量(kg/10a)	窒素量(kg/10a)
有明イチゴ配合2号	6-6-2	60kg	3.6kg
あまおう専用肥料	8-6-3	60kg	4.8kg

- ・ 草勢が旺盛(10月上旬で最大葉9cm以上)で、マルチ被覆までに2番花房の分化が確認できない場合、畝上の追肥を控え、2番花房の分化後に溝肥を施用する。
- ・ 追肥施用後は、必ず中耕を行い、根張りを促進させる(追肥しない場合でも中耕は必ず行う)。
- ・ 中耕と同時に通路をさらえ、畝上をかまぼこ状に整地する。



## かん水チューブの設置

- ・ かん水チューブは、うね中央部に設置し、マルチ前には散水状態を確認しておく。

## マルチ被覆

- ・ 生育が旺盛な場合、2番花房の分化促進のため、出蕾直前までマルチ被覆を遅くする。
- ・ 生育不良の場合は、早めにマルチ被覆し、生育促進を図る。
- ・ マルチ被覆の後は、蒸散量が多くなるため十分にかん水を行う。(チップバーン予防)
- ・ マルチの裾は、生育が旺盛な場合は畝の肩まで上げておくが、通常の生育をしている場合は、下ろしたままで生育促進を図る。

## ジベレリン処理

- ・ 1番果房出蕾期に、10ppmで5cc/株の処理を行う。
- ・ 湿度が高いと処理効果が高まるため、かん水後に処理する。
- ・ 開花後に処理した果実は、奇形果になる可能性があるので開花前に処理する。

## ビニル被覆と直後の温度管理

- ・ ビニル被覆は、平均気温が17℃を下回る頃か、頂果の開花時期のどちらか早い時に行う。(花に強い雨が当たると、奇形果の発生が懸念されるため)
- ・ ビニル被覆後は、サイド・妻面を開放し、出来るだけ気温が上がらないようにする。
- ・ サイドや妻面は、夜間温度が10℃を下回るようになったら、閉め込みを行う。
- ・ 草勢が弱い場合、早めにビニルを被覆して、やや高めの温度管理で生育促進を図る。

## 【 果房の生育状況別温度管理の目安 】

頂果の状況	昼間	夜間	備考
～ 着果期	26～28℃	10℃	新葉の生育促進
着果期 ～ 白熟期	24～26℃	7～10℃	
白熟期 ～ 収穫期	20～24℃	5～7℃	収穫中は品質向上のため低めの管理

### ミツバチ搬入

- ・ ミツバチの搬入は、頂果の開花1週間前を目安に行う。
- ・ 寒冷紗被覆ハウスにミツバチを搬入する場合は、訪花を促すため、巣箱をハウス内に入れておく。
- ・ 寒冷紗除去後は、ハウスの外に設置し、ビニルを閉め込んだ後は巣門の前に入り口を開ける。

### 果実マット設置

- ・ 果皮は、水分に弱く傷みやすいので、果実用マットを畝上に敷く。
- ・ マットは、遅くとも頂果の開花期頃までに敷き、風等で飛ばないように固定する。

## 病害虫防除について

定植後の防除については、害虫は発生初期での防除、病害は発生前の予防防除が重要である。

### ● うどんこ病

- ・ ビニル被覆後は、湿度が高く軟弱徒長しやすいため発病しやすくなる。
- ・ 定植後からビニル被覆前後まで、定期的に予防防除を行う。

### ● ハスモンヨトウ

- ・ 葉裏やハウスパイプ等に卵塊を産み付ける。
- ・ 発生初期の若齢幼虫時(1cm程度)の薬剤防除が重要となる。

### ● オオタバコガ

- ・ 成虫(蛾)は、葉裏などに卵を1粒ずつ産み付ける。
- ・ ふ化した幼虫は、蕾や果実の中に食入する特徴があるため、注意して確認する。
- ・ 発生初期の防除を徹底する。

### ● ハダニ類

- ・ 下葉除去、マルチ後に、薬液が葉の裏までかかるように防除する。

### ● スリップス

- ・ 開花中の花に成虫が飛来産卵し、ふ化した幼虫が果実に被害を与える。
- ・ 飛来する成虫や、ふ化する幼虫の防除を徹底する。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**